

4. 同和問題（部落差別）について

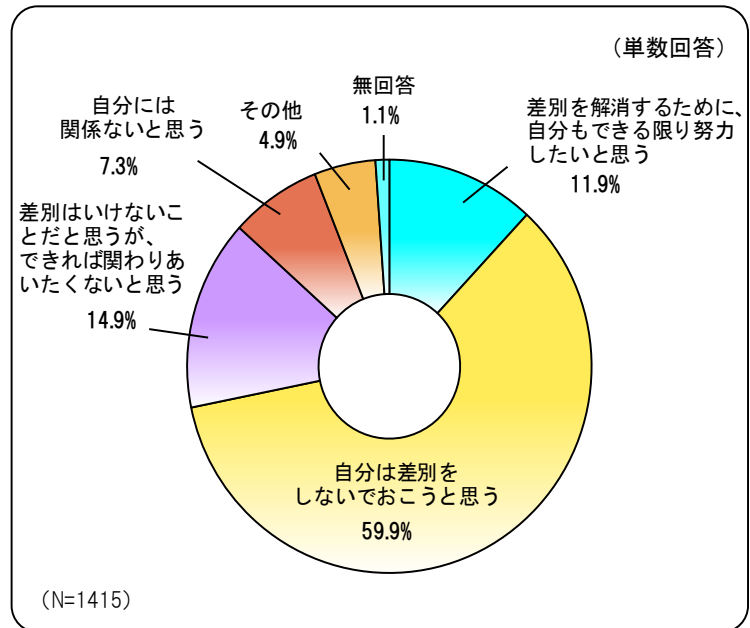
問10 差別に関する意識

あなたは、同和問題(部落差別)と自分自身との関わりについてどのような意識を持っていますか。
次の中から選んでください。(○は1つだけ)

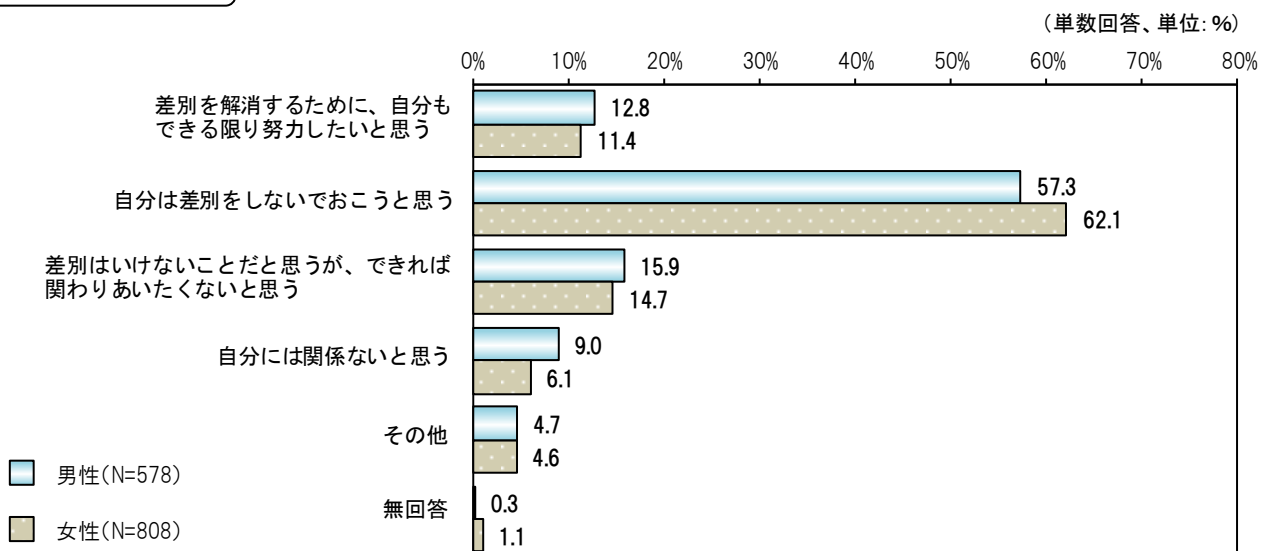
1. 差別を解消するために、自分もできる限り努力したいと思う
2. 自分は差別をしないでおこうと思う
3. 差別はいけないことだと思うが、できれば関わりあいたくないと思う
4. 自分には関係ないと思う
5. その他 ()

全体集計

最も割合が高いのは「自分は差別をしないでおこうと思う」が59.9%で、次いで「差別はいけないことだと思うが、できれば関わりあいたくないと思う」が14.9%、「差別を解消するために、自分もできる限り努力したいと思う」が11.9%となっている。



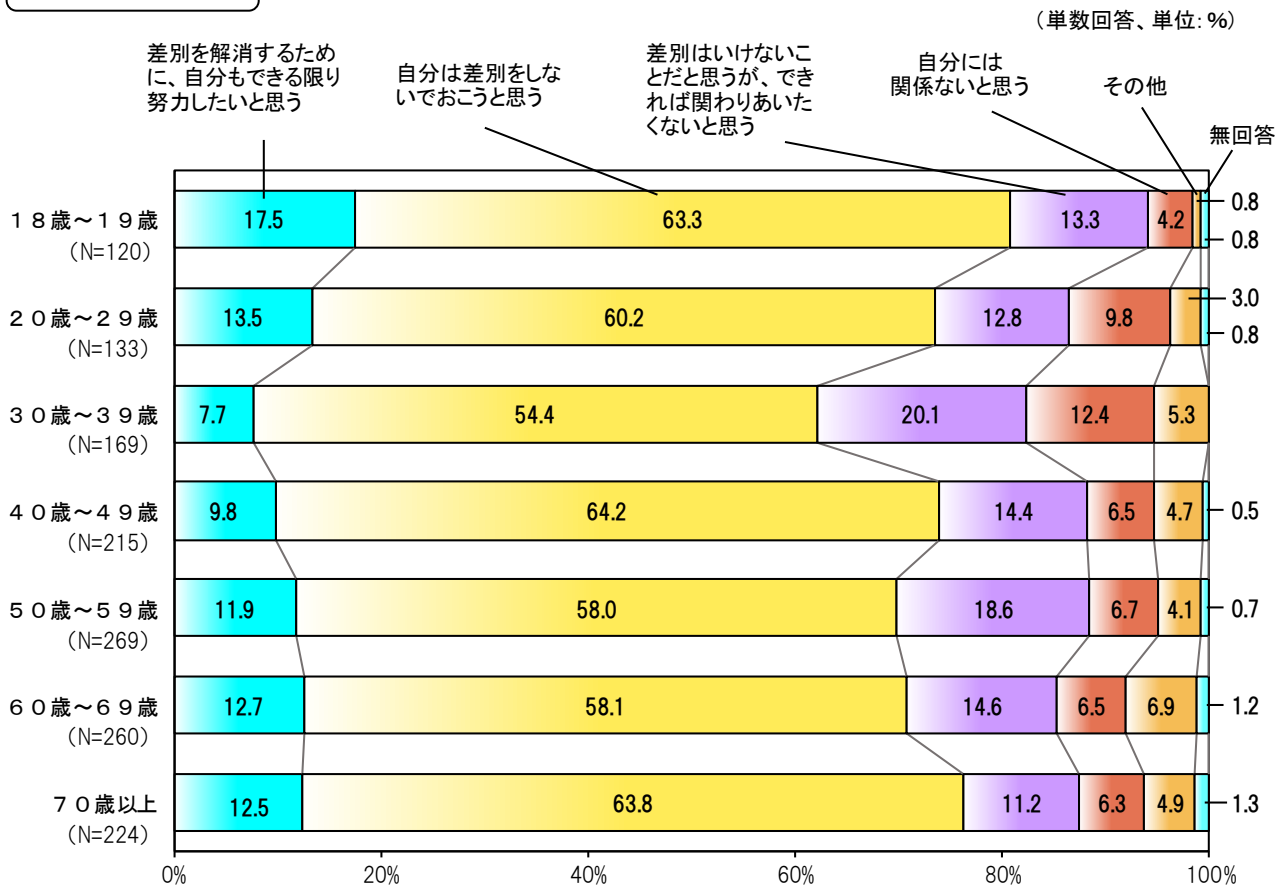
性別集計



性別でみると、男女ともに全体集計と同様の傾向となっている。

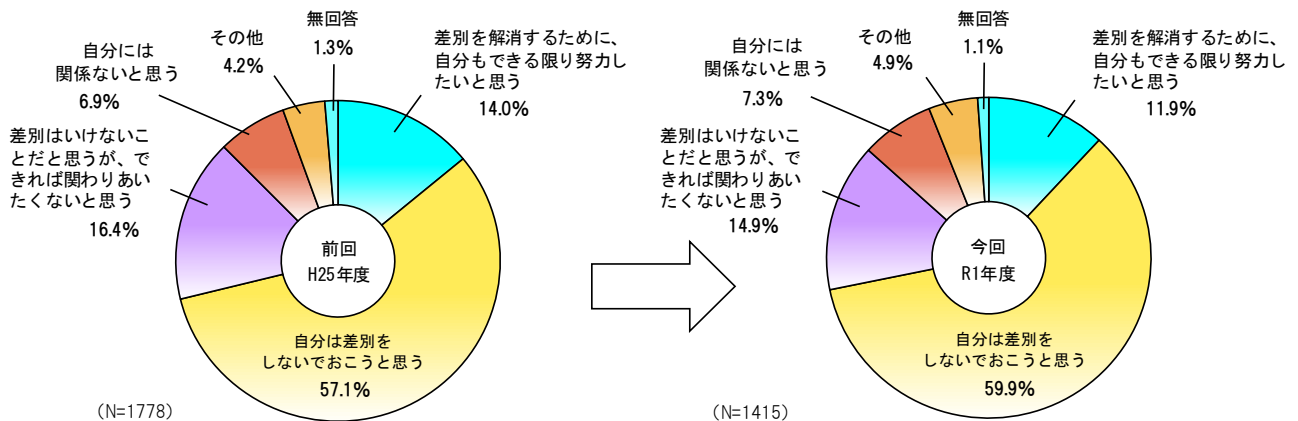
「自分は差別をしないでおこうと思う」が最も男女差が大きく、男性(57.3)よりも女性(62.1%)の方が4.8ポイント高くなっている。

年齢別集計



年齢別で見ると、「差別を解消するために、自分もできる限り努力したいと思う」と「自分は差別をしないでおこうと思う」を合わせた割合については、10歳代が80.8%と最も高く、30歳代が62.1%と最も低くなっている。

過去の調査との比較



前回の調査と比較すると、「自分は差別をしないでおこうと思う」の割合が平成25年度よりも2.8ポイント高くなっている一方、「差別を解消するために、自分もできる限り努力したいと思う」が2.1ポイント低くなっている。

問 1 1 結婚に対する姿勢

仮に、あなたのお子さんが、恋愛をし、結婚したいといっている相手が同和地区の出身者だとわかった場合についてお答えください。※お子さんがいない場合はいると仮定してお答えください。

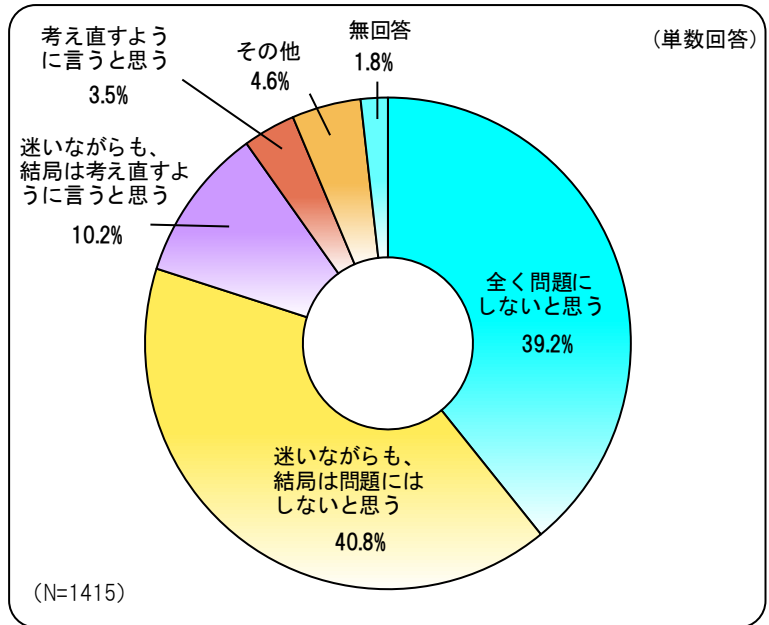
(1) あなたはどんな態度を取ると思いますか。次の中から選んでください。(〇は1つだけ)

1. 全く問題にしないと思う
2. 迷いながらも、結局は問題にはしないと思う
3. 迷いながらも、結局は考え直すように言うと思う
4. 考え直すように言うと思う
5. その他 具体的に ()

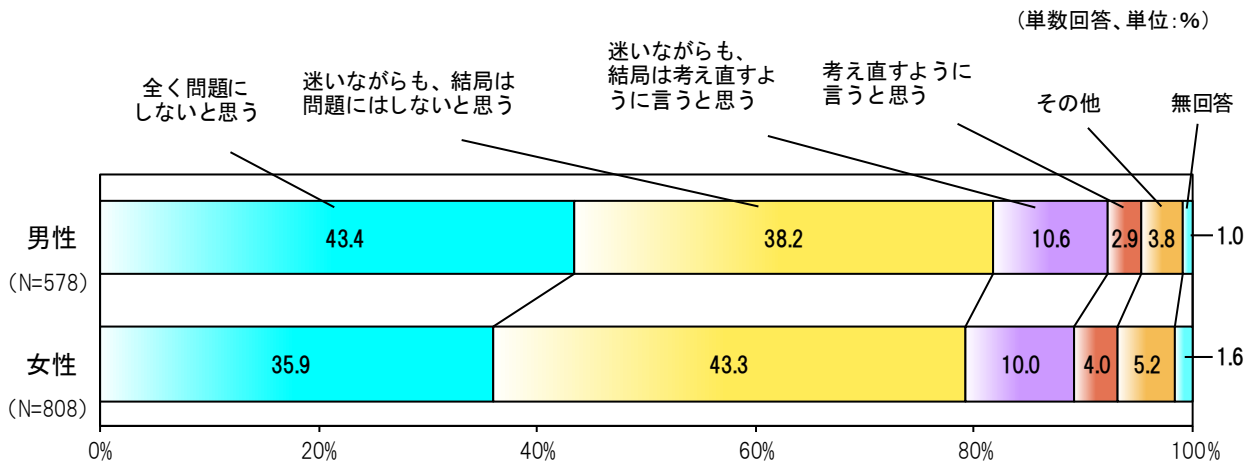
全体集計

「迷いながらも、結局は問題にはしないと思う」が 40.8%と最も高く、次いで「全く問題にしないと思う」が 39.2%、「迷いながらも、結局は考え直すように言うと思う」が 10.2%となっている。

「全く問題にしないと思う」と「迷いながらも、結局は問題にはしないと思う」を合わせた「問題にはしない」と思う割合は 80.0%となっている。



性別集計



性別でみると、男性は「全く問題にしないと思う」の割合が最も高く、次いで「迷いながらも、結局は問題にはしないと思う」となっている。

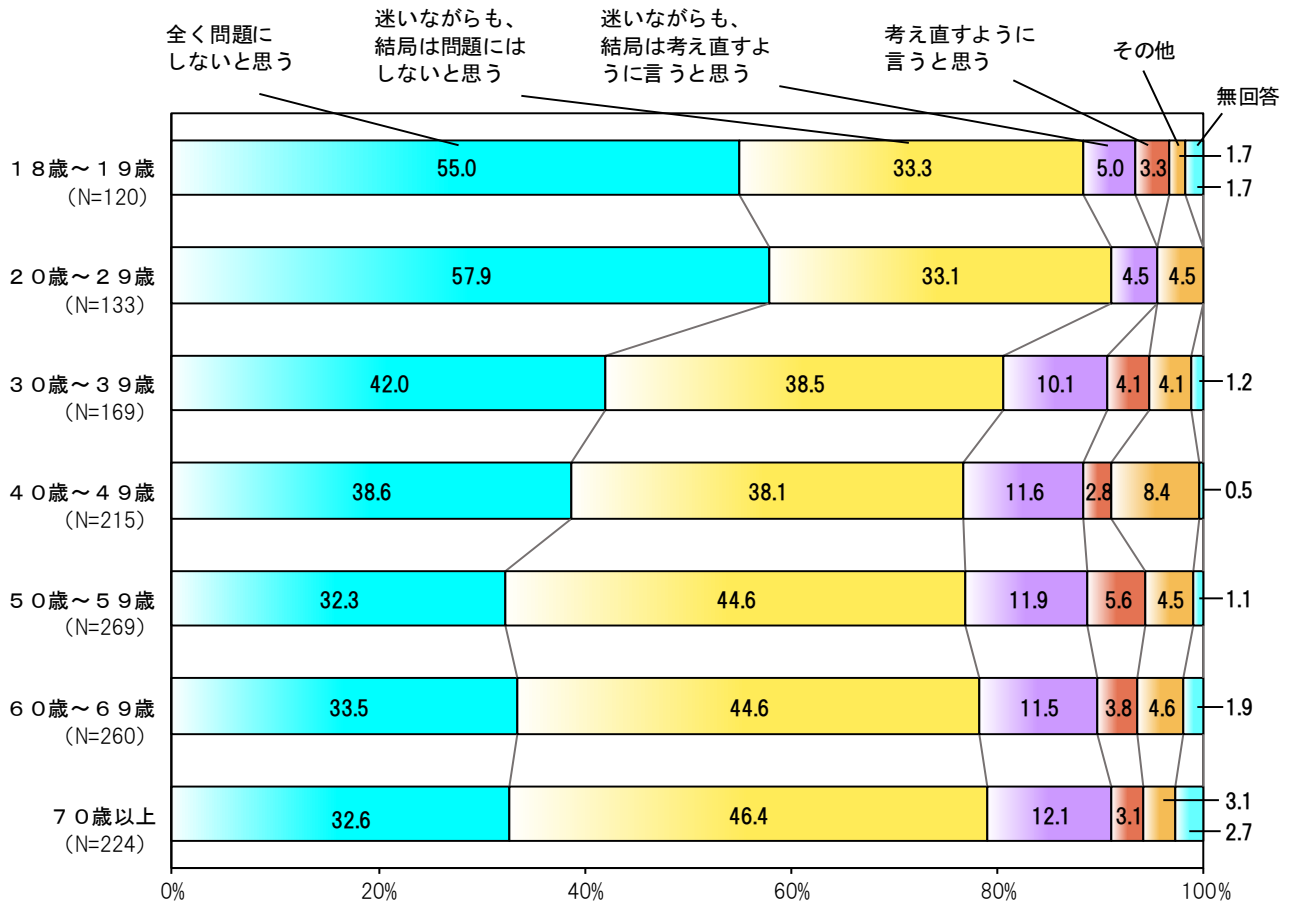
女性は「迷いながらも、結局は問題にはしないと思う」の割合が最も高く、次いで「全く問題にしないと思う」となっている。

第3位は男女とも「迷いながらも、結局は考え直すように言うと思う」となっている。

「全く問題にしないと思う」が最も男女差が大きく、女性 (35.9%) よりも男性 (43.4%) の方が 7.5 ポイント高くなっている。

年齢別集計

(単数回答、単位：%)



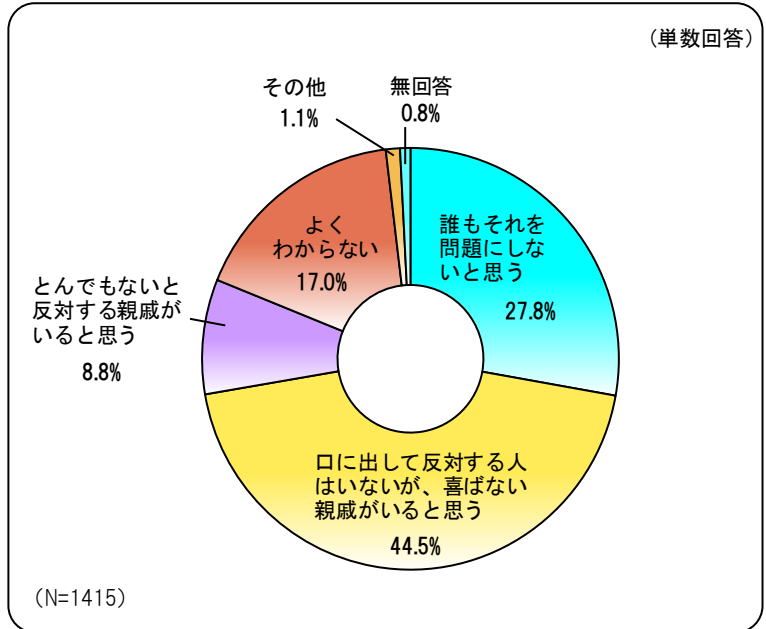
年齢別でみると、「全く問題にしないと思う」と「迷いながらも、結局は問題にはしないと思う」を合わせた割合については、20歳代が91.0%と最も高く、40歳代が76.7%と最も低くなっている。

(2) あなたの親戚はどんな態度を取るといいますか。次の中から選んでください。(〇は1つだけ)

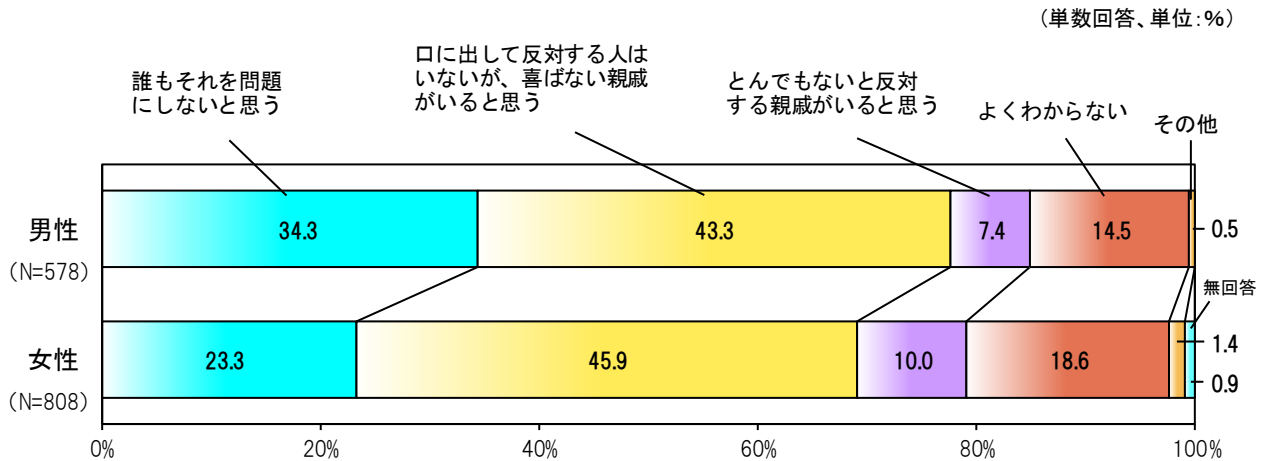
1. 誰もそれを問題にしないと思う
2. 口に出して反対する人はいないが、喜ばない親戚がいると思う
3. とんでもないと反対する親戚がいると思う
4. よくわからない
5. その他 具体的に ()

全体集計

「口に出して反対する人はいないが、喜ばない親戚がいると思う」が44.5%と最も高く、次いで「誰もそれを問題にしないと思う」が27.8%、「よくわからない」が17.0%となっている。



性別集計

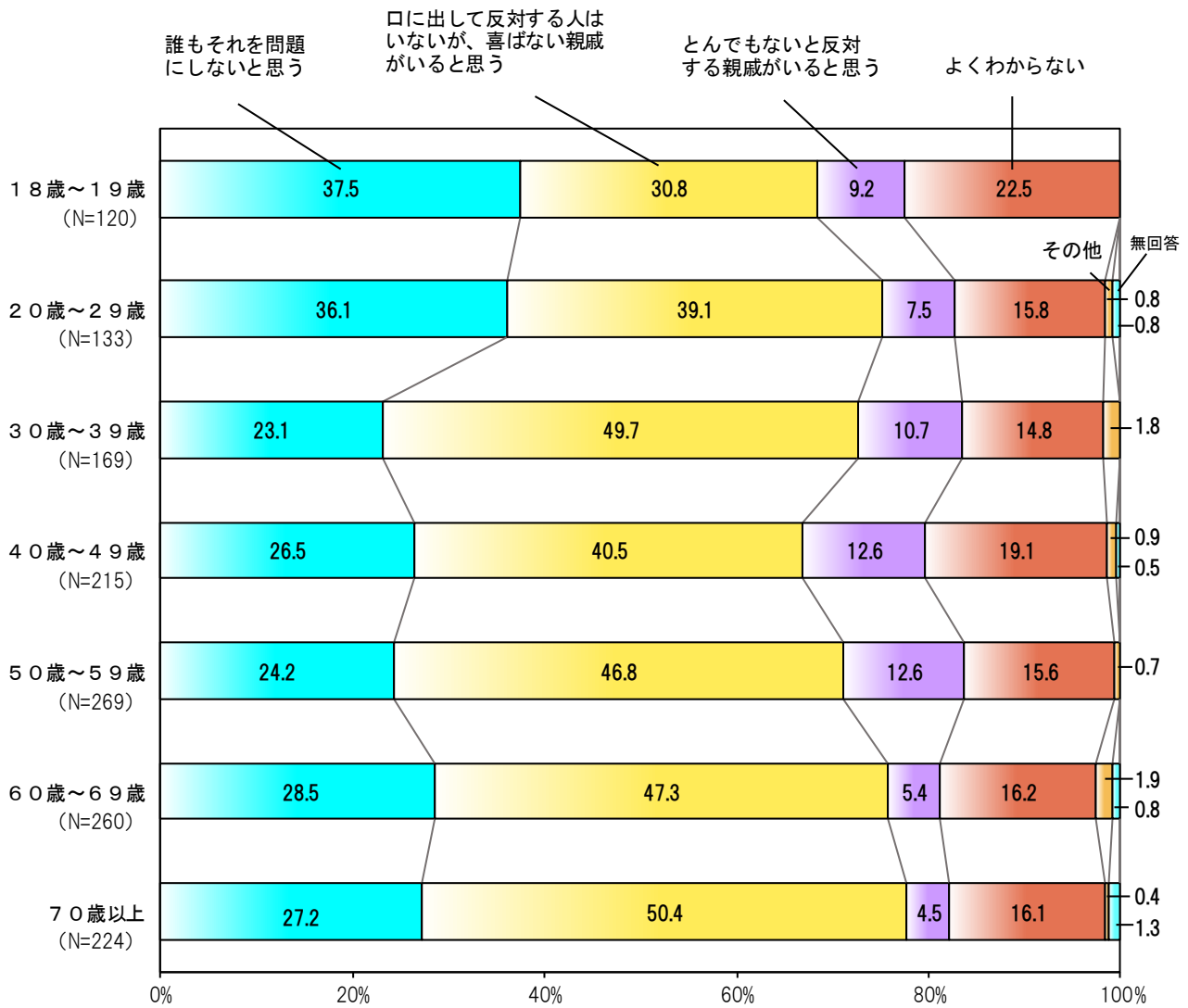


性別でみると、男女ともに「口に出して反対する人はいないが、喜ばない親戚がいると思う」の割合が最も高く、次いで「誰もそれを問題にしないと思う」、「よくわからない」の順となっている。

「誰もそれを問題にしないと思う」が最も男女差が大きく、女性(23.3%)よりも男性(34.3%)の方が11.0ポイント高くなっている。

年齢別集計

(単数回答、単位：%)



年齢別で見ると、「誰もそれを問題にしないと思う」の割合は、10歳代が最も高く、30歳代が最も低くなっている。また、「とんでもないと反対する親戚がいると思う」は、40歳代、50歳代が同率の12.6%と最も高く、70歳以上が4.5%と最も低くなっている。

問12 居住地としての意識

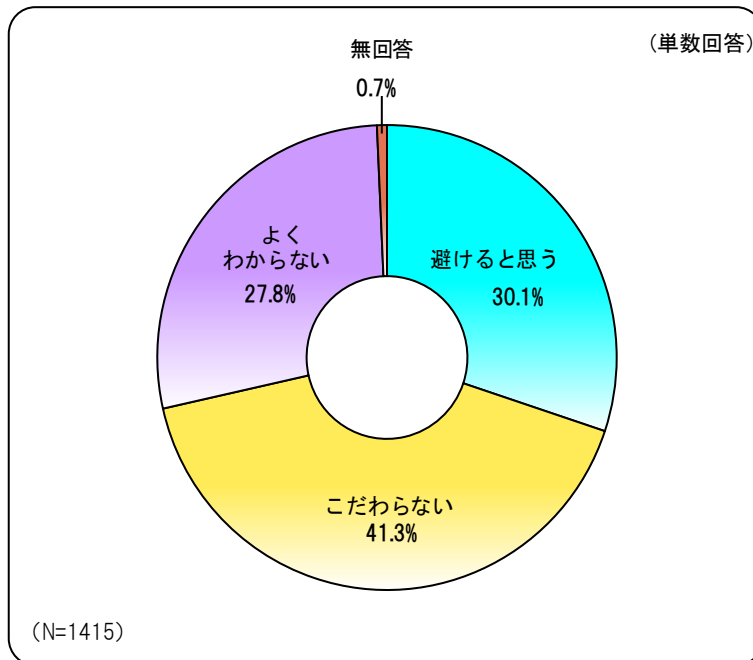
あなたが、住宅（家・マンション）の購入又は賃貸を選ぶ際についてお答えください。

(1) 価格や立地条件などが希望にあっている住宅でも、同和地区の地域内であった場合、避けることがあると思いますか。次の中から選んでください。(○は1つだけ)

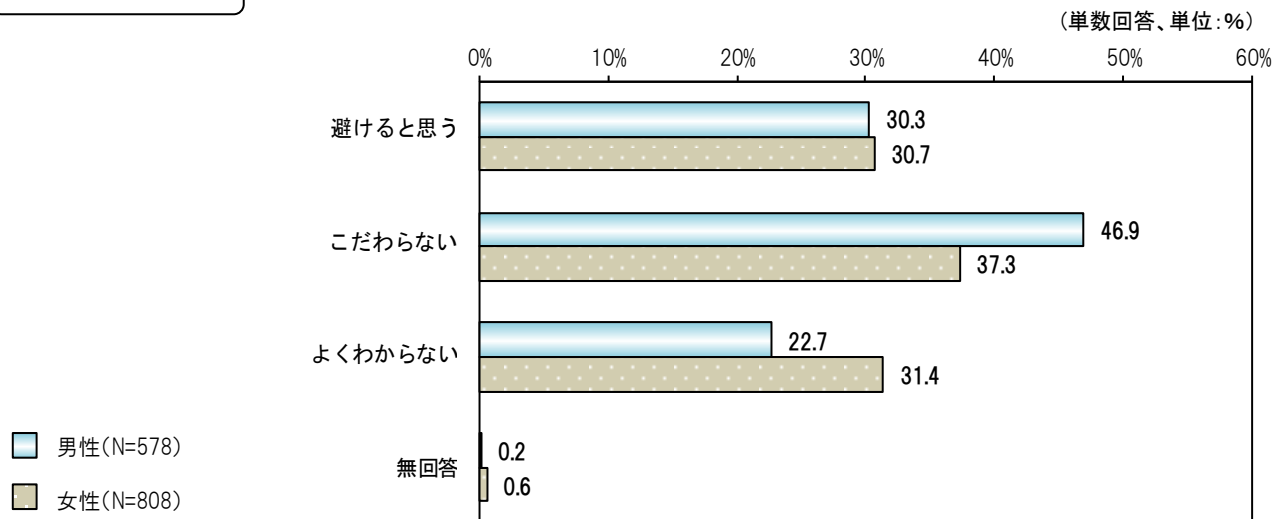
1. 避けると思う 2. こだわらない 3. よくわからない

全体集計

「こだわらない」が41.3%、「避けると思う」が30.1%、「よくわからない」が27.8%となっている。



性別集計



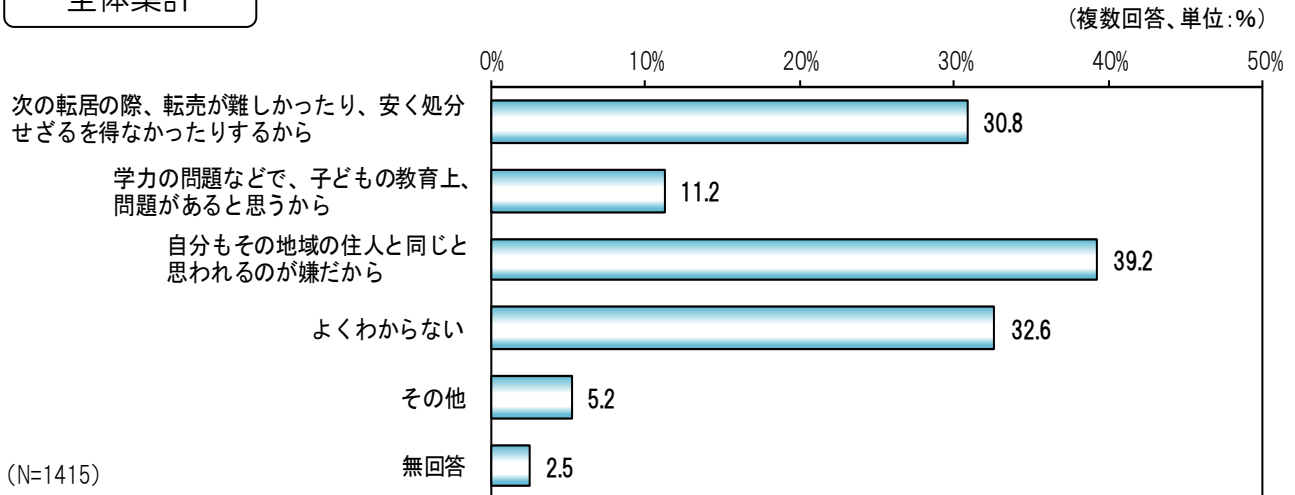
性別でみると、男女ともに「こだわらない」の割合が最も高く、第2位は男性が「避けると思う」、女性が「よくわからない」、第3位は男性が「よくわからない」、女性が「避けると思う」となっている。

「こだわらない」が最も男女差が大きく、女性(37.3%)よりも男性(46.9%)の方が9.6ポイント高くなっている。

(2) 同和地区の地域内であった場合、住宅の購入や入居を避ける人がいるのはなぜだと思いますか。
次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

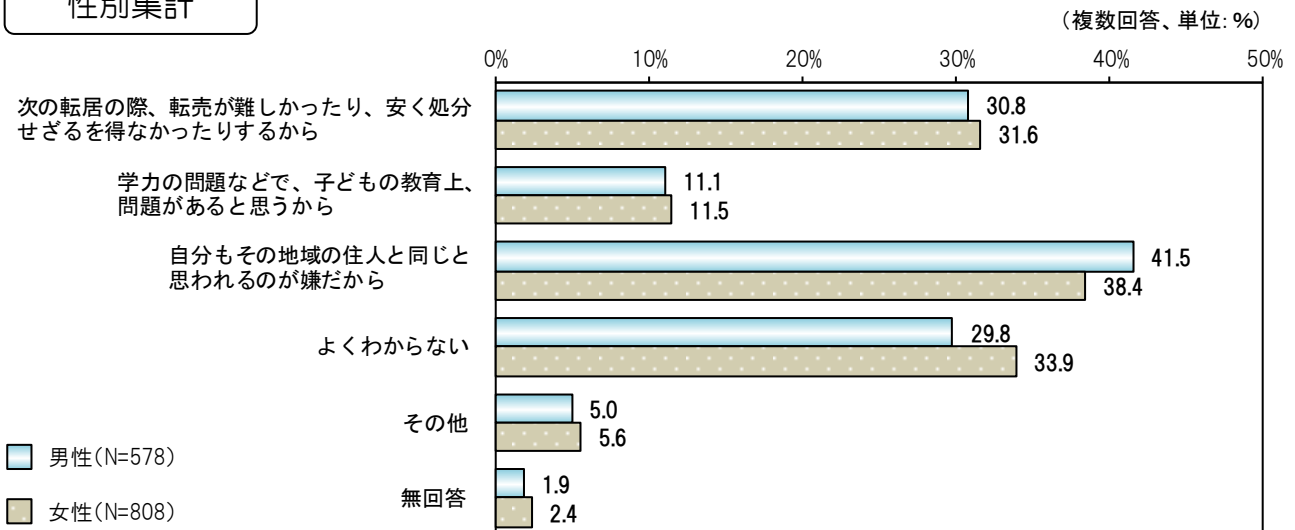
1. 次の転居の際、転売が難しかったり、安く処分せざるを得なかったりするから
2. 学力の問題などで、子どもの教育上、問題があると思うから
3. 自分もその地域の住人と同じと思われるのが嫌だから
4. よくわからない
5. その他、具体的に ()

全体集計



「自分もその地域の住人と同じと思われるのが嫌だから」の割合が 39.2%と最も高く、次いで「よくわからない」が 32.6%、「次の転居の際、転売が難しかったり、安く処分せざるを得なかったりするから」が 30.8%となっている。

性別集計



性別で見ると、男女ともに「自分もその地域の住人と同じと思われるのが嫌だから」の割合が最も高く、第 2 位は男性が「次の転居の際、転売が難しかったり、安く処分せざるを得なかったりするから」、女性が「よくわからない」、第 3 位は男性が「よくわからない」、女性が「次の転居の際、転売が難しかったり、安く処分せざるを得なかったりするから」となっている。

「よくわからない」が最も男女差が大きく、男性 (29.8%) よりも女性 (33.9%) の方が 4.1 ポイント高くなっている。

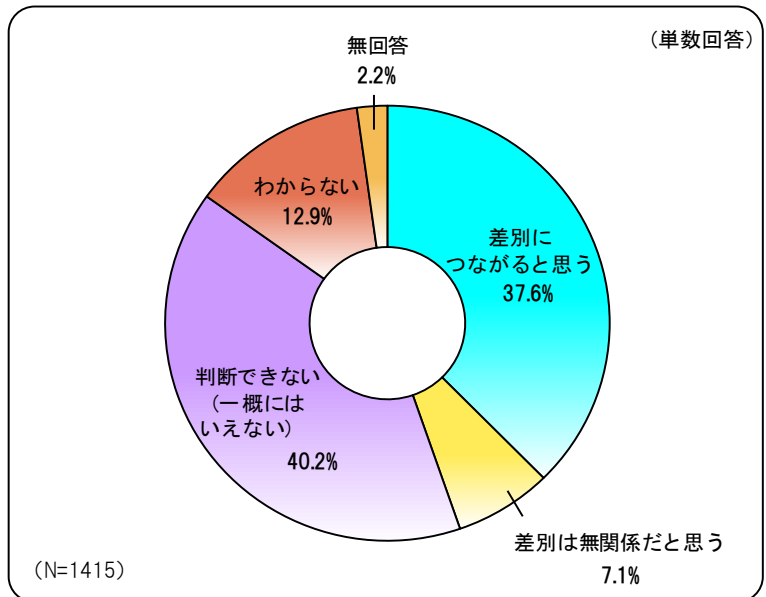
(3) 不動産取引の際に問12の(2)のような理由で避けることをどう思いますか。

次の中から選んでください。(〇は1つだけ)

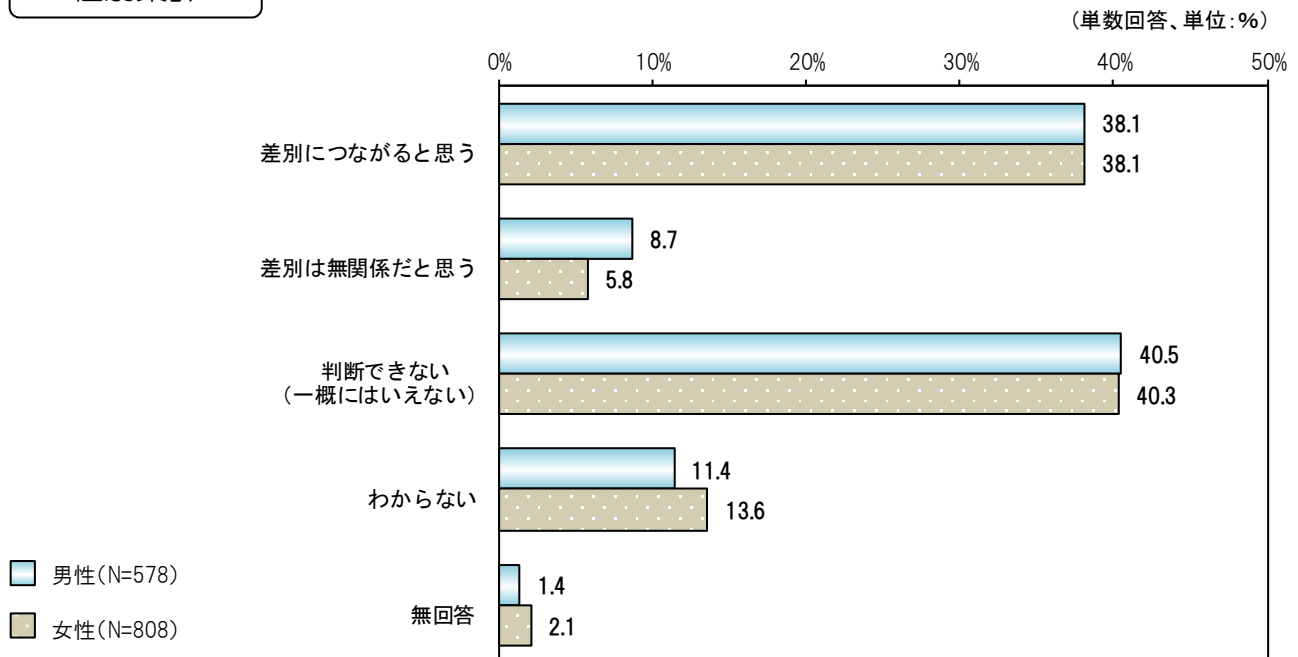
1. 差別につながると思う
2. 差別は無関係だと思う
3. 判断できない (一概にはいえない)
4. わからない

全体集計

「判断できない (一概にはいえない)」が 40.2%と最も高く、次いで、「差別につながると思う」が37.6%、「わからない」が12.9%となっている。



性別集計



性別で見ると、男女ともに「判断できない (一概にはいえない)」が最も高く、次いで、「差別につながると思う」、「よくわからない」の順となっている。

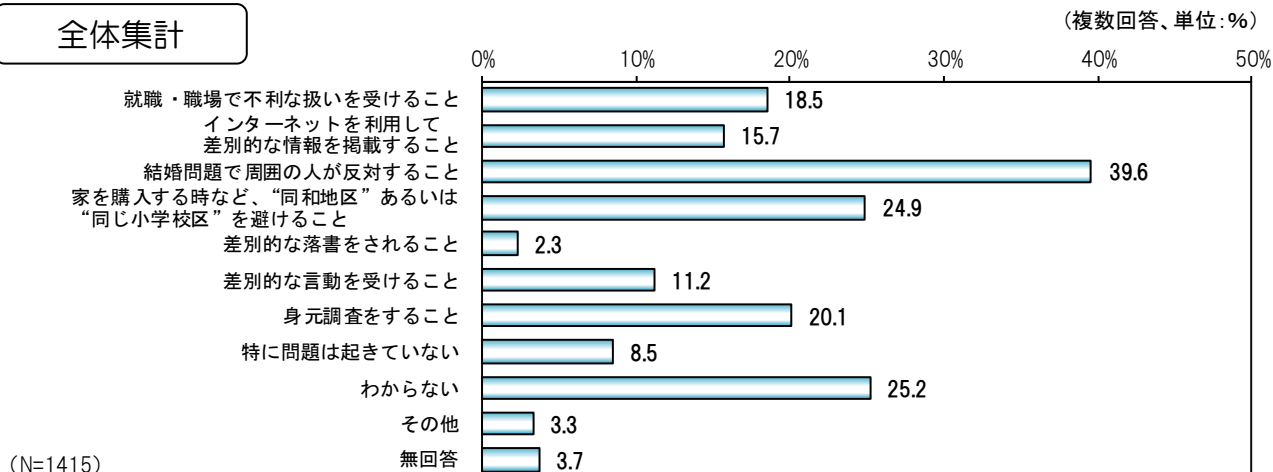
「差別は無関係だと思う」が最も男女差が大きく、女性 (5.8%) よりも男性 (8.7%) の方が 2.9 ポイント高くなっている。

問13 同和問題（部落差別）に対する人権上の問題点

あなたは、同和問題（部落差別）に関して、現在、特にどのような問題が起きていると思いますか。次の中から選んでください。（○は3つまで）

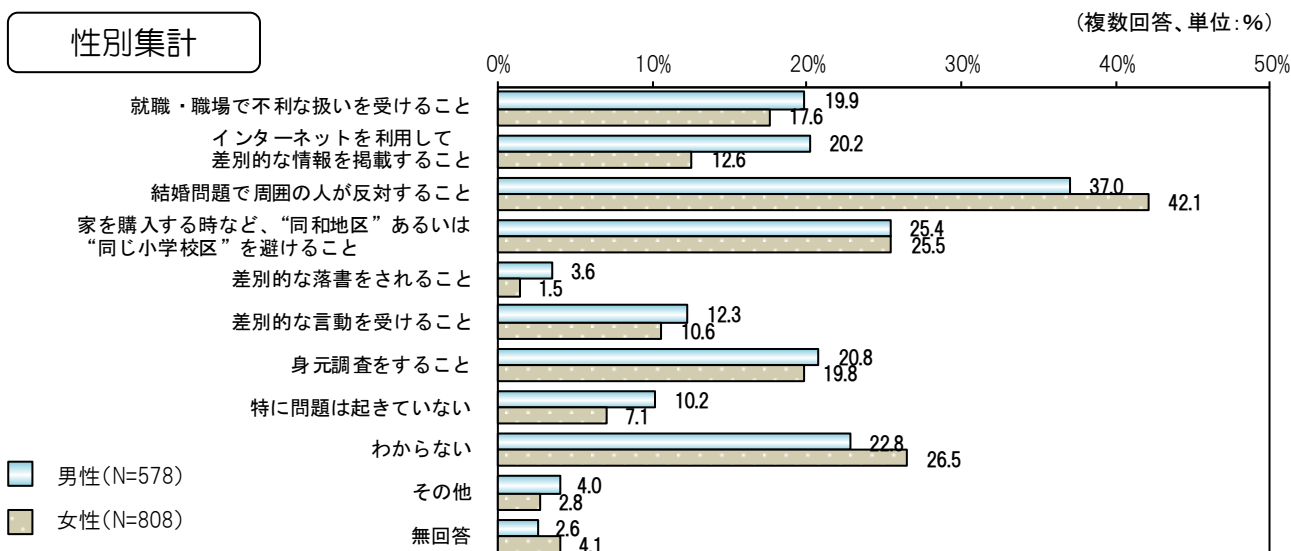
1. 就職・職場で不利な扱いを受けること
2. インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること
3. 結婚問題で周囲の人が反対すること
4. 家を購入する時など、“同和地区”あるいは“同じ小学校区”を避けること
5. 差別的な落書をされること
6. 差別的な言動を受けること
7. 身元調査をすること
8. 特に問題は起きていない
9. わからない
10. その他（ ）

全体集計



「結婚問題で周囲の人が反対すること」の割合が 39.6%と最も高く、次いで「わからない」が 25.2%、「家を購入する時など、“同和地区”あるいは“同じ小学校区”を避けること」が 24.9%となっている。

性別集計

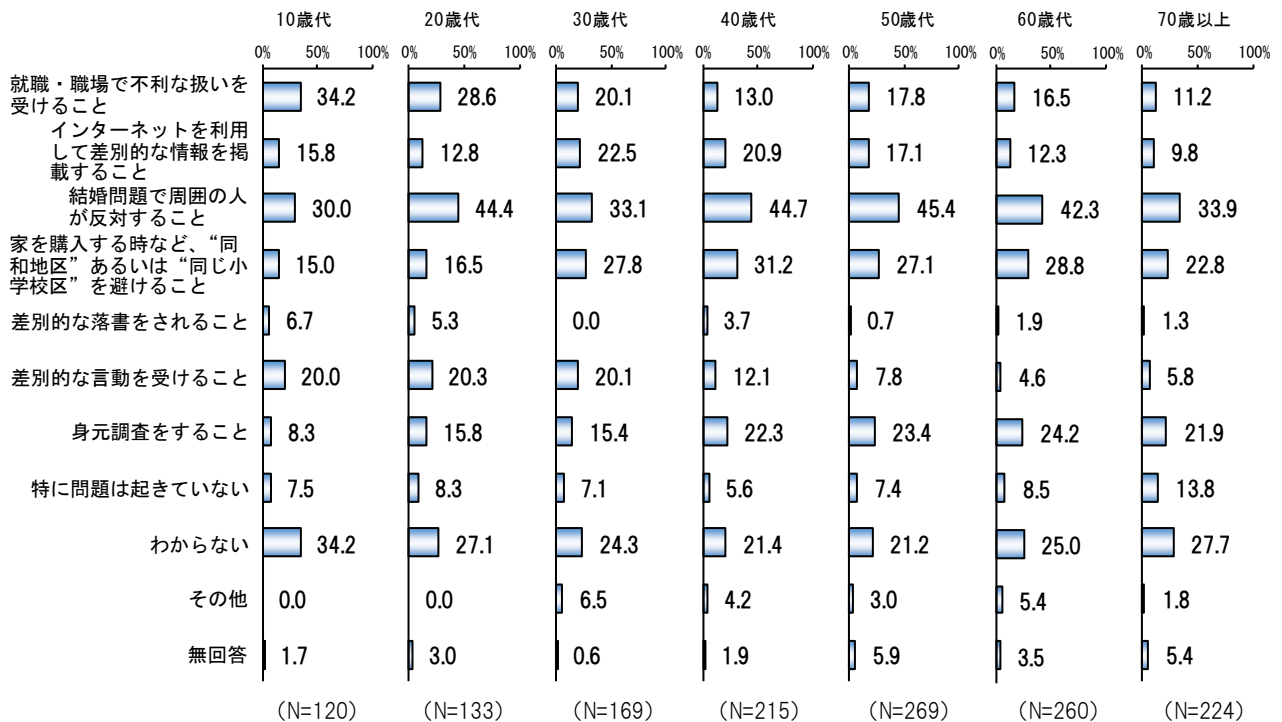


性別でみると、男女ともに「結婚問題で周囲の人が反対すること」の割合が最も高く、第2位は男性が「家を購入する時など、“同和地区”あるいは“同じ小学校区”を避けること」、女性が「わからない」、第3位は男性が「わからない」、女性が「家を購入する時など、“同和地区”あるいは“同じ小学校区”を避けること」となっている。

「インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること」が最も男女差が大きく、女性(12.6%)よりも男性(20.2%)の方が7.6ポイント高くなっている。

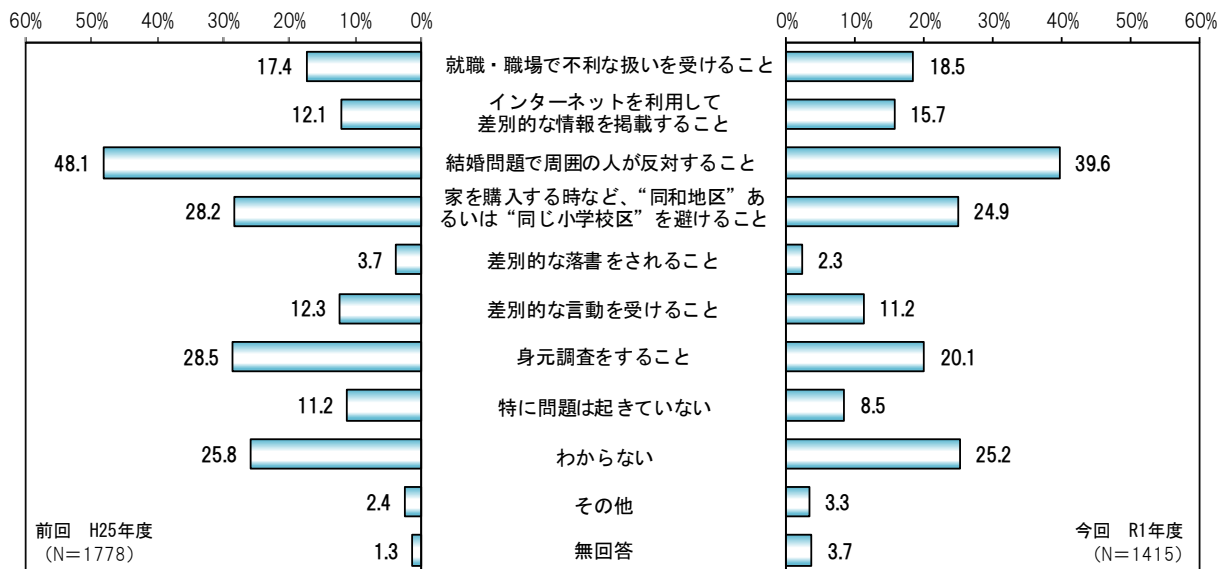
年齢別集計

(複数回答、単位：%)



年齢別で見ると、10歳代は同率で「就職・職場で不利な扱いを受けること」、「わからない」、20歳代以上は「結婚問題で周囲の人が反対すること」の割合が最も高くなっている。

過去の調査との比較



前回の結果と比較すると、「就職・職場で不利な扱いを受けること」や「インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること」の割合が増加している。また、依然として「結婚問題で周囲の人が反対すること」が高い割合を占めている。